

A*STAR-KPU Joint Symposium 報告書

2015年12月25日

報告者：京都薬科大学病態生理学分野教授 芦原 英司

日時：平成27年11月9日（月）13：00～17：10

場所：京都薬科大学 愛学ホール

ホスト：臨床腫瘍学分野教授 吉貴達寛
病態生理学分野教授 芦原英司

主催：がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

参加者数：120名（職員23名、学部生73名、大学院生20名、その他4名）

概要：本 A*STAR-KPU Joint Symposium は、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン主催のもと、学部生、大学院生、さらに若手教員の広い視野を確保することで、国際的に活躍できるがん研究者の育成を目的とするとともに、京都薬科大学と Singapore Immunology Network (SIgN), Agency for Science, Technology and Research (A*STAR) との継続的交流を今後さらに発展させるために実施された。”Close Encounters of Immunology”と題された本シンポジウムでは、講演・質疑すべて英語で実施され、がん研究において欠かすことのできない免疫学的な思考を養うために、この分野で活躍される演者に幅広い最新の免疫学領域の研究を紹介していただいた。2 題の特別講演では A*STAR, SIgN の PI である Dr. Florent Ginhoux に基礎研究の観点から全身の自然免疫に重要な働きをするマクロファージや樹状細胞の発生について、京都大学梶島健治教授（A*STAR, SIgN, PI 兼任）には臨床研究の観点から皮膚がんと免疫学についてのご講演をいただいた。一般公演では Dr. Andreas Schlitzer（A*STAR のポスドク）から最先端の網羅的遺伝子発現解析方法である Single Cell Analysis を応用した免疫細胞の発生や機能解析について、高田和幸博士（本学病態生理学分野教員/ A*STAR Visiting Scientist）からは iPS 細胞から脳免疫担当細胞ミクログリアの作製とアルツハイマー病治療への応用へ向けた研究について、石原慶一博士（本学病態生化学分野教員）からはダウン症の克服に向けたモデルマウスを用いた治療ターゲットの探索について、藤井正徳博士（本学薬理学分野教員）からはアトピー性皮膚炎発症にかかわる遺伝子群の機能解析について、中田 晋博士（本学臨床腫瘍学教員）からは脳腫瘍幹細胞のキャラクタライゼーションについてのそれぞれ講演をいただいた。

教員はもとより学部学生ならびに大学院生からの多くの質問があり、講演後、A*STAR 演者からも本学の国際化ならびにサイエンスへの取り組みと意識の高さに驚き感心した旨感想が寄せられた。本学の教員の一人として、本学の学生や教職員がすでに国際化を十分意識しており、その対策が中身を伴って着々と進んでいることを示す成果を肌で感じとることができた。継続的ならびに更なる国際化を進めることが京都薬科大学の特色づくりの一助となる手ごたえを感じた。乾賢一学長の Opening Remarks、報告者による主旨説明から始まり 本学臨床腫瘍学吉貴達寛教授の Closing Remarks で終了した白熱したシンポジウム後は、ミキサーが行われ、学生、教員、演者がともに和んだ雰囲気談話しており、盛況理にシンポジウムが終了したことを実感した。

本シンポジウムの成果

- 参加者ががん研究における免疫学の重要性についての理解を深めた。
- 教員はもとより学生による積極的な質問が多数あり、これまでの本学の国際化への取り組みが実を結び、学内外への正の波及効果をもたらした。
- 国際化に向け統合的、連携的かつ継続的な更なる場を提供する意義が明確化した。
- A*STAR との共同研究が開始された。

乾 賢一 学長(Opening Remarks)



Dr. Florent Ginhoux (特別講演)



梶島健治先生(特別講演)



Dr. Andreas Schlitzer (一般講演)



高田和幸博士(一般講演) 石原慶一博士(一般講演)



藤井正徳博士(一般講演)



中田 晋博士(一般講演)

学生の質問風景

2

講演会場の雰囲気



A*STAR–KPU Joint Symposium
“Close Encounters of Immunology”
SlgN - For Education of Young Cancer Investigators -

Date: 9th November 2015 Venue: **Kyoto Pharmaceutical University, Room A31**





Opening Remarks Ken-ichi Inui (The President, KPU) 13:00

Session I Chair: Dr. Kazuyuki Takata (SlgN/KPU)

Dr. Andreas Schlitzer (SlgN/University of Bonn) 13:10~13:35
 Single cell analysis of dendritic cells and monocytes
 –A new strategy to understand cancer, inflammation and autoimmunity–

Dr. Kazuyuki Takata (SlgN/KPU) 13:35~14:00
 iPS cell-derived primitive macrophages as a therapeutic source of microglia for Alzheimer’s disease

Session II Chair: Prof. Tatsuhiro Yoshiaki (KPU)

Dr. Keiichi Ishihara (KPU) 14:10~14:30
 Deciphering developmental delays and cognitive impairments in mouse models of Down syndrome
 –Identifying molecular targets for development of pharmacotherapy–

Dr. Masanori Fujii (KPU) 14:30~14:50
 Role of the hairless gene in the development of diet-induced atopic dermatitis in mice

Dr. Susumu Nakata (KPU) 14:50~15:10
 Characterization of the Lgr5-positive brain cancer stem cells




Keynote Lecture I (Chair: Prof. Eishi Ashihara, KPU) 15:20~16:10
Prof. Kenji Kabashima (Kyoto University)
Skin cancer and immunology

Keynote Lecture II (Chair: Prof. Eishi Ashihara, KPU) 16:20~17:10
 Hosts: Prof. Eishi Ashihara (KPU), Prof. Tatsuhiro Yoshiaki (KPU)
Dr. Florent Ginhoux (SlgN)
Ontogeny of macrophages and dendritic cells
 –Implications for development, inflammation, and cancer–

Closing Remarks Prof. Tatsuhiro Yoshiaki (KPU) 17:10
Mixer ~18:00 Contact: kaz@mb.kyoto-phu.ac.jp

Sponsorship: Promotion Plan for the Platform of Human Resource Development for Cancer
 Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, JAPAN